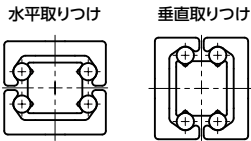


● 材質・仕上げ

	TSM
レール ランナー ストッパ	スチール 三価クロメート処理 転走面硬化処理
ボールベアリング	スチール 焼入れ
ボールケージ	スチール 亜鉛メッキ
連結部	スチール 亜鉛メッキ



● 水平方向・垂直方向のどちらにも取り付けが可能なリニアスライドレールです。



- ストローク量は全閉時の長さ(L寸法)以上。
- ストッパを取りはずすと両スライド仕様になります。
- レールの転走面は高周波焼入れ済み。低摩擦なボールベアリングと組み合わせることにより、高い定格荷重性能・静粛性能・耐摩耗性能を実現。高寿命です。
- 専用グリースの塗布により、恒久的に滑らかな操作が可能です。
- 本商品は1本での販売となります。

● 用途

引き出し・スライドドア・キャビネット
各種産業設備・車両設備・家具など

単位: mm

品番	H	L	L ₁	W	W ₁	t ₁	d	定格荷重(N)*1	質量(g)
TSM-28-210	28	210	232	25.8	12.3	4	5.5	444	898
TSM-28-370	28	370	380	25.8	12.3	4	5.5	496	1630
TSM-28-450	28	450	464	25.8	12.3	4	5.5	405	1980
TSM-28-530	28	530	548	25.8	12.3	4	5.5	342	2300
TSM-35-370	35	370	406	34	16.5	3.5	6.5	534	2230
TSM-35-450	35	450	494	34	16.5	3.5	6.5	439	2835
TSM-35-530	35	530	558	34	16.5	3.5	6.5	409	3339
TSM-35-610	35	610	646	34	16.5	3.5	6.5	346	3843
TSM-43-450	43	450	486	44	21	4.5	8.5	1370	4700
TSM-43-610	43	610	626	44	21	4.5	8.5	1115	6400
TSM-43-770	43	770	796	44	21	4.5	8.5	870	8550
TSM-43-930	43	930	966	44	21	4.5	8.5	714	10000

*1: 1本あたりの定格荷重です。取り付け穴をすべて使用した場合の参考値です。固定箇所を減らした場合定格荷重が減少します。荷重の方向などは技術資料をご確認ください。

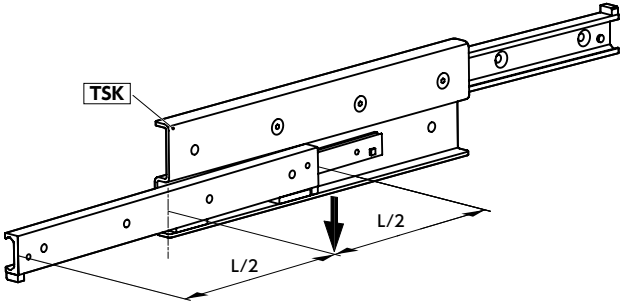


● 定格荷重

定格荷重は、レールが全開位置までスライドした状態で、その中央部に垂直・下向きに作用します。

定格荷重は垂直取り付け、水平取り付けともに同値です。また2本使いを推奨しているため、回転方向の荷重には対応していません。

TSKを使用した例



⚠ 使用上の注意

- 故障・破損の原因になるため、最大スライド速度0.8m/sを超える速度での使用は避けてください。
- ご使用前には技術資料の取り付け上の注意、使用上の注意をよくお読みいただき、正しく安全にご使用ください。

● 品番指定 ※価格・納期はNBKウェブサイトをご覧ください。

TSM-28-210



取り付け上の注意

● 取り付け穴・取り付けねじ

取り付けの際は強度区分10.9の六角穴付き皿ねじをご使用ください。

リニアスライドレールの取り付け穴はすべて使用してください。スライドの干渉などで使用できない取り付け穴がある場合、その穴以外をすべて使用してください。

TSJ、**TSL**、**TSM**はストッパを取りはずすことでレールもしくはランナーを移動させ、すべての取り付け穴を使用することができます。その後ストッパを再度取り付けてください。

TSI、**TSJ**、**TSL-GG**、**TSL-DG**のランナーにねじを取りつける際は、レールとの干渉を防ぐためねじ先端がランナーから飛び出さないようにしてください。

使用上の注意

● 定格荷重

各リニアスライドレールの定格荷重は1本あたりの値であり、適切な安全率を考慮して設計してください。

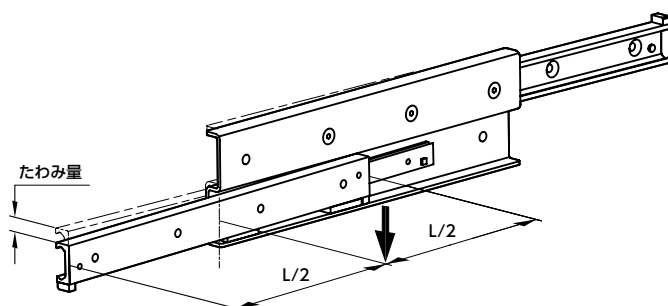
定格荷重は、リニアスライドレールを全開位置までスライドさせた状態で、レールまたはランナーの中心部に垂直下向きに作用する力を指します。

定格荷重は参考値であり、保証値ではありません。また使用環境や経年劣化によって定格荷重は変化します。

事前に実際と同じ使用条件で動作確認を行ってください。

● たわみ量

リニアスライドレールは全開位置で荷重が加わると定格荷重範囲内でもわずかなたわみを生じますが、機能に影響はありません。



● 移動速度

リニアスライドレールの最高移動速度は0.8m/sです。

● ボールクリープ

リニアスライドレールは急な開閉の切り替えや急加速が加わると、特にボールケージ全長が長いものでボールクリープが発生しやすくなります。

ボールクリープが発生した場合、ボールケージは中間スライドやインナースライドの半分の速度で同期して動くことができず、本来位置する場所から離れる可能性があります。

また、移動量が通常より少なくなる可能性があります。

ボールケージを本来の位置に戻すためには、リニアスライドレールを全開位置と全閉位置に動かしてください。